

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

北海道大学

前期日程

科目

国語(現代文)

試験時間	120 分	満点(配点)	150 点	出題数	現代文 2題、古文 1題、漢文 1題			
総 括				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
				分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

〈総 論〉

出題形式はほぼ例年と同様であり、本文の長さは一も二もほぼ昨年並み。一昨年まで7問であった漢字の書き取りが昨年4問に減少したが、今年も同様であった。設問で要求される字数は、一の問題五が三年連続一二〇字であり、二の問題五も八〇字から九〇字以内で記述させる二〇一五年以降の形から変更はない。記述式設問全体にそれほど大きな変化はなかった。昨日出題された抜き出し設問は今年度は見られなかった。一も二も、傍線部の前後の文脈の読み取り、意味段落や本文全体の趣旨を踏まえることが要求された。例年通り本文の展開に沿って各設問の解答を考えることが大切であった。

〈合格への学習対策〉

問題文の論旨を正確に読み取り、指定字数内でまとめる力一朝一夕につくものではない。地道な学習がものをいうことになる。要約の練習を日々重ねることが大切である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
一	評論(社会学)	梅川由紀『ごみと暮らしの社会学』(2025年 青弓社 第4部 まとめ 第10章 ごみと人間の関係)の一節。省略がある。	モノの価値が残り、所有者の痕跡が刻まれたごみの浄化について論じた文章。	標準
二	評論(教育)	今井康雄『反自然主義の教育思想—〈世界への導入〉に向けて』(2022年 岩波書店 補論 経験の貧困と教育の未来)の一節。	結果ばかりを重視する現在の教育を批判し、子供が自分の力で物の見方を獲得する経験の重要性について論じた文章。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
一	問一	漢字書き取り	標準的なレベルの出題。	標準
	問二	記述	傍線部の直後の文脈に着目する。	標準
	問三	記述	傍線部を含む段落の二つ後と三つ後の段落の内容から考える。	標準
	問四	記述	傍線部の次段落の内容を読み取る。	標準
	問五	記述	「モノの価値」と「所有者の痕跡」に着目して全文の趣旨をまとめる。	やや難
二	問一	記述	傍線部直後の引用部分および次段落から考える。	標準
	問二	記述	傍線部を含む段落の前二つの段落の論旨をまとめる。	標準
	問三	記述	「よりなじみ深いエンハンスメント」が「教育」。前後の文脈から判断。	標準
	問四	記述	最終段落から解答をまとめる。	標準
	問五	記述	「結果」重視への批判と「人間形成的な経験」を軸に全文の趣旨をまとめる。	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

北海道大学

前期日程

科目

国語(古文)

試験時間	120 分	満点(配点)	150 点	出題数	現代文 2題、古文 1題、漢文 1題
------	-------	--------	-------	-----	--------------------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

松尾芭蕉の俳文「許六離別詞」(柴門の辞)からの出題。本文は520字程度で、昨年度より分量は減少した。設問は、現代語訳3問、説明3問という構成で、例年と同じ形式であるが、要求される全体の記述量はやや減少した。例年通り、内容の把握に重点が置かれている。本文は、門人森川許六が江戸から彦根に帰るときに松尾芭蕉が贈った餞別の詞であり、許六にとっての絵画と俳諧との関係を起点として、芭蕉が重んじる後鳥羽院・空海の言葉も引き合いに出しながら芭蕉自らの俳諧観を述べている。説明問題は基本的な性格は例年と変わらないものであったが、現代語訳問題は例年と異なり人物の名前を明らかにすることを求める形式であった。

〈合格への学習対策〉

文法、語彙、古典常識などの基本的な学力を身につけること、また、読み取った内容を要領よくまとめる力を養うことが重要である。和歌を含む文章や、芸能や連歌・俳諧関係の文章も出題されることがあるので、和歌や芸能などについての幅広い理解を深めておくことも重要である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	俳文	「許六離別詞」(松尾芭蕉)	教科書にはしばしば採用されるが、大学入試では珍しい。	やや易

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	現代語訳。文脈に留意して、言及されている人物をつかむ。	やや易
	問二	記述	内容説明。「予こころみに……用をなす事一なり」までの内容から、「品ふたつ」とは「風雅」(＝俳諧)と「画」のことだと読み取る。	標準
	問三	記述	内容説明。「夏炉冬扇」とは無用の物のたとえであり、傍線部は俳諧が世間から求められていないことを述べたものだとつかむ。	標準
	問四	記述	内容説明。「これ」が書道を指していることをおさえた上で、空海の言葉「古人の跡を……求めよ」の内容を踏まえてまとめる。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

北海道大学

前期日程

科目

国語(漢文)

試験時間	120 分	満点(配点)	150 点	出題数	現代文 2題、古文 1題、漢文 1題			
総 括				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
				分 量(昨年比)	増加	昨年並	減少	
〈総 論〉 フグが好きで中毒して死んだ人の霊が遺族の夢に現れて、フグをお供えにせよと要求したという逸話と、博打で財産を失った人が博打の道具を棺に入れろと遺言し、息子がそれに従ったという逸話を通して、杓子定規に礼の規則に従うより、親を思う心の方が大事だという筆者の父の考えを述べた文章。最近の北大では奇談・怪談と筆者や登場人物の考えを組み合わせた随筆・随想風の文章が好んで出題されているが、同傾向の出題である。 〈合格への学習対策〉 基本的句形、重要語の読みや意味を確認の上、ある程度の長文を読みこなす練習が必要。代名詞の指示内容や節の接続など文脈に即した訓読と読解、また、対比・対句など文章の構造を意識した訓読と読解ができるようにすること。前述のように逸話と筆者や登場人物の考えの双方の内容を含む文章が好んで出題されているため、逸話に加えて論説的文章の読解を練習しよう。								

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
四	随筆	閑微草堂筆記(紀昀)	『閑微草堂筆記』は四庫全書の編纂で知られる清の紀昀が、見聞した奇談を集め、みずからの感慨を加えた随筆集。北大では2018年にも問題文の出典となっている。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
四	問一	記述	文字の読みの設問。いずれも基本的な語彙だが、「如」の二つの働きに注意。	標準
	問二	記述	ひらがなのみ、歴史的かなづかいの書き下しの設問。「何不～」は重用句形のひとつ。「以～」は以下の述語に懸かる、前置詞に相当する文字だが、傍線部では述語が省略されているため、「以」自体を「もつてす」と述語化して読む必要があることに注意。	標準
	問三	記述	「動詞以～」は「以～動詞」の倒置形。「～で・～なので・～を動詞する」の意を表す。「不可動詞」は「～できない・してはいけない」の意を表す。	標準
	問四	記述	全体要旨に関わる内容説明の設問。例年通り75字の字数制限がある。傍線部の内容を読み取り、問題文に見える二つの逸話(フグで亡くなった人と博打で財産を失った人)との関係を考えてまとめる。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階[難・やや難・標準・やや易・易]で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。